

# 「東アジアにおける日本の安全保障」

安全保障の基本は国境を

行われている。

他国に犯されない事だ。日本は敗戦によって、北方四島と竹島の実効支配を他国に許してしまった。また尖閣諸島は挑戦を受けている。中国の挑戦を跳ね除け、あらゆる国際場裡に不法占拠の訴えを続けねばならぬ。

紛争の解決には、まず話合

いが必要だが、話合いで解決出来ぬ時には、様々な実力行使が必要となる。それは権威や経済力や武力であったりする。人間最大のリスクは死

相互に驚かない状況を作る  
ことが大切だ。不測の事態が発生せず、常に計算通りに状況が推移し続ければ、緊張は高まらない。安定した状況が維持出来れば軍縮に進む事も出来る。武力維持には猛烈にコストがかかるから、お互いに軍縮出来れば喜ばしい。

だから、最後は命のやり取りになる。それが戦争だ。合理的に判断出来る国同士の場合、紛争はコストの計算で解決出来る。ただそれが国境を含む非常に大きな権益を巡る紛争の場合は、戦争のコストまで計算される。時には武力行使がコスト優位と計算され、実際に戦争が

安全保障は、相手国が当方に武力行使を起すと、コスト過大になるから手が出せない状況を作ることだ。それで安全は保障されるうえに様々な紛争を優位に解決することが出来る。だからこそ各国はこの状況を作る為に軍拡競争となる。1990年のソ連崩壊は、アメリカとの軍拡競争にソ連が敗れた。軍事コストで国家が破綻したのだ。

安全保障は、当事国同士が

今世界最強の軍事大国は

相互に驚かない状況を作る

アメリカ合衆国である。日本

ことが大切だ。不測の事態が

は、このアメリカの最重要同盟国である。NATO(北大西洋条約機構)がアメリカの

発生せず、常に計算通りに状

西ユーラシアの盾とするなら、日米同盟は東ユーラシア

況が推移し続ければ、緊張は

の銚と言ってもいい。この軍事覇権に挑戦しつつあるのが中華人民共和国である。

東アジアで台頭する中国に

対して日本は、アメリカ合衆

国の軍事覇権の優位を補完

する。アメリカと中国は既に

核均衡している。核戦争

は起こらない。ただ通常兵器

を用いた戦闘は起こり得る。

第一義的には、銚としての在

日米軍の打撃力と、盾として

の自衛隊の防衛力の総合力

が、中国に戦闘を踏み止まら

せる優位性を維持出来れば

いいのだ。中国は近年の発展

によって、軍事力を10倍以上も強化したが、同時に都市経済を発展させ、戦闘が国内に

から実際には中国は戦争出

来ない。使えない兵力を計算

上の必要の為に競う競争に

陥っている。しかし、この不毛

な競争に出来るだけ低コスト

で勝ち続ける事が、今のと

ころ日本の安全保障の命題

なのだ。

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください!お待ちしております。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会  
事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net